



CONTENTS

| | | |
|--------------------------|-------------------------|-------|
| ごあいさつ | 会長 田中田鶴子 | • • 1 |
| | 第4回世界女性会議参加団長 中畔都舎子 | |
| 特集 | | • • 2 |
| | 第4回世界女性会議・NGOフォーラムに参加して | |
| | 柴田 美子・池内 知子・生田美和子 | |
| | 山下 弥生・渡辺 有・武田 公子 | |
| 北京に吹いた風 (ワークショップに参加して) | | |
| | 阿部 恭子 | • • 4 |
| 国際交流の大切さ (言葉によって国の壁をなくす) | | |
| | ムズボンディワ・フンガイ・ニューマン | • • 4 |
| ねっとわーく | | |
| | アメリカ研修に参加して | |
| | 吉村むつ子・青木 妙子 | • • 5 |
| 総会報告とお知らせ | | • • 6 |

表題「てるびつと」は、京都府知事荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)「あけぼの」の意味です。

表紙絵について
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミスナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものです。



海外研修KYOのあけぼの会
会長 田中田鶴子

例年になく穏やかな三が日の1996年の年明けに会員の皆様にはお健やかに、すがすがしく、初春をお迎えになりましたことと思います。1995年を振り返ってみますと、国の内外ともに激動の年でありました。特に阪神・淡路大震災におきましては未曾有の出来事であり、私達に数多くの教訓が残されました。一日も早い復興を心からお祈り致しております。さて、95年度は皆様ご高承の「第4回国連世界女性会議」が開催されました。悠久4000年の歴史の足跡が残る隣国中国で政府間代表会議とNGOフォーラムがあり、NGOフォーラムで討論されたこと等を政府間代表会議に上程するものです。

京都府から京あけぼのフェスティバル実行委員会17加入団体から15名の方々が「NGOフォーラム」に参加され、私もその一員に加わり貴重な体験をさせていただきました。

「平等、開発、平和」をテーマとし、185ヶ国5万人の参加者であり陣慕華中国婦女連合会主席が「NGOフォーラムは建設的な成果を得るだろう」と。又、NGO発起人代表を務めたフィンランドのヘルビ・シピラさんは「女性は平等に向けて目覚ましく歩んできたが、今後は平和のためにさらに貢献すべきだ」と述べられ、会場を埋めつくした2万人余の世界の女性は総立ちとなり、歓声が北京の空にひびきわたりました。

北京宣言、行動綱領が採択され、女性の参加の促進(エンパワメント)、性と生殖に関する健康と権利、雇用を含む女性の経済的独立、女性や少女に対するあらゆる差別撤廃など言葉の上ではすべて男女平等、女性の権利等誓いました。私達が地域社会や国、世界へ手を携えて行動する時が参りました。「12の重点課題領域」の綱領が女性にとって意義ある人権宣言となることを願っています。



団長 中畔都舎子

第4回世界女性会議が北京で開催され、京都府からはKYOのあけぼのフェスティバル実行委員会の構成団体の中から選ばれた15名が代表団として参加することが出来ました。

世界女性会議はナイロビで開かれて以来10年ぶり、冷戦構造の終結をうけて、ナイロビ会議で採択された「2000年に向けた女性のためのナイロビ将来戦略」を再検討し、21世紀への行動綱領づくりのための会議でした。1975年の国際婦人年以來、私達はKYOのあけぼのプランを指針として、女性問題を基本的人権尊重の立場から学習し実践してきたことが、世界的視野で実証できたことの意義は大きかったと思います。

懐柔県でのワークショップでは、団員がそれぞれ班を編成し、ひとつでも多くのショップに参加し発言していこうとの熱意で動き回りました。中でも環境問題のコーナーでは、日本の手づくり石けん運動が、男性とは別な働き方の模索の実例として共感をもって受け止められました。熱心な議論の行われている各会場に、私達は手づくりの「うちわ」と活動の「チラシ」を配りPRしました。どの会場も終始和やかに政治や文化を超え、熱い議論が展開されていました。これは今回の会議のごく一部ですが、今後私達団員が肌で感じ自分の眼で確かめた体験や感動を、府民の皆様方にどのように伝えていけるかが帰国後の大きな課題でありました。それだけにこの度「てるびつと」が北京会議の特集号として発行されますのは意義のあることであり、心からの敬意を表したいと思います。